

2019年活動報告（年次報告）

タンザニア眼科支援チームは2019年6月17日から23日まで、第15回目となる現地支援活動を行いました。今回は以下6名の眼科医を中心として、支援活動を行いました（敬称略）。中荃敏明（藤田眼科）、藤田恭史（大阪医科大学附属病院、藤田眼科）、渕野恭子（藤沢市民病院）、前沢琢磨（名古屋市立東部医療センター）、浅見哲（眼科三宅病院副院長）、山崎俊（山崎眼科）。主な活動内容は以下の5項目です。



視力が改善し、術者の藤田恭史先生と手を取り合って喜ぶ白内障術後患者さん

- 1) 眼科医療機器、薬剤、メスなどの消耗品の寄贈
- 2) 日本人眼科医による講義6題
 1. 浅見 :How to recover in case of the posterior capsule rupture
 2. 中荃 :Technique of Capsulotomy
 3. 藤田 :Intraoperative management of the small pupil
 4. 前沢 :How to learn ophthalmology for Japanese residents
 5. 渕野 :How Japanese female ophthalmologists play an active part in workplace
 6. 山崎 :History of Tanzania eye support program
- 3) 医療機器のメンテナンス、寄贈機器のセットアップと使用および管理指導、これまでに寄贈してきた眼科医療機器の修理点検、管理指導など（竹内護氏、竹内建司氏）
- 4) 超音波白内障手術の模範手術公開、現地眼科医への手術指導（浅見医師、中荃医師、藤田医師）
- 5) 眼科医がいない郊外（Kinyerezi 村）の診療所での眼科健診

2009年も前年同様に6月に訪問しました。この時期は比較的若い医師たちが大学で研修しており、講義や実地指導の場で以前よりも活発で熱心な質疑応答がみられました。若い眼科医たちが積極的に超音波白内障手術の普及に関心を示していることは、大きな手ごたえだと感じています。経済発展に伴う電力供給の安定も、超音波白内障手術の普及の後押しになると思われました。今回も3回目となる、眼科医がいない郊外の診療所での眼科健診を行いました。その他にも、在タンザニア日本大使館の後藤大使よりご招待をいただいた大使公邸での食事会、セレンゲッティ国立公園でのサファリ観光など盛りだくさんの内容でした。

これからも我々の活動が微力ながらもタンザニアの眼科医療発展のために協力できればより良いと考えております。

（報告者：山崎俊 GEG05212@nifty.com）

■ 2020年 年間スケジュール（予定）

- 1) 2月22日から3月8日、タンザニア眼科医の日本での研修
- 2) 6月27日から7月5日まで予定していたタンザニアでの支援活動は、コロナウィルス感染拡大のため中止となりました。